

令和5年度第1回新潟市男女平等教育推進研究会概要

1 日 時 令和5年7月13日（木） 15:00～16:30

2 会 場 新潟市陸上競技場 第3会議室

3 出席者 ※敬称略

(1) 委員（五十音順）

相庭 和彦	新潟大学大学院教育学研究科	教授
石崎 和子	市民生活部男女共同参画課	課長
齊藤 綾子	にいがた女性会議	代表
眞田 和徳	新潟市立大江山中学校	校長
高橋 越子	新潟市立桜が丘小学校	教諭
長谷川聡実	新潟市立味方中学校	校長
長谷川 瑞	新潟市小中学校PTA連合会	副会長
中村 享香	新潟大学ダイバーシティ推進センター	准教授
林 なおみ	新潟市立中之口東小学校	校長
林 洋一	新潟市立鳥屋野中学校	教諭
本間 智絵	新潟市立女池小学校	教諭

(2) 事務局

本間 浩之	新潟市教育委員会学校支援課	総括指導主事
清野 佳子	新潟市教育委員会学校支援課	指導主事

(3) 傍聴者

なし

4 会議内容

(1) 総括挨拶

- ・ 第4次男女共同参画行動計画で取組として挙げられている「保護者啓発」について、昨年度は、文科省が作成するチラシを配付したところ、一昨年度に比べて多くの学校で取組を推進することができた。
- ・ 昨年度、男女平等教育「学習資料」を使った子どもたちの学習の様子や、学習を参観した保護者の反応を受けて、「学習資料」の内容について提言をいただいた。その提言を受けて児童・生徒に実施した、男女共同参画意識調査を基に、「学習資料」の改訂に向けて多くのご意見をいただきたい。

(2) 会長挨拶

- ・ 世界経済フォーラムが 2022 年に発表したグローバルジェンダーギャップ指数は、146 か国中 116 位だった。前は 156 か国中 120 位と横ばいで、先進国の中で最低レベルの結果だった。また、この指数は、4 つの分野のデータから作成され、「教育」は 1 位、「健康」は 63 位と世界トップクラスの値であった。一方で、「経済」は 121 位、「政治」は 139 位だった。
- ・ この結果をみると、男女平等教育は、社会と切り離された状態でしか機能していないのではないかと感じる。教育現場の努力が社会に反映されていない、もしくは、社会はもうこれでいいのだと思って反映させていないのではないだろうか。
- ・ 児童生徒の男女平等教育「学習資料」を改訂するポイントとして、学校教育と社会との接続を考えていくと良いのではないかと考えている。

(3) 協議

① 学習資料改訂の方向性について

- ・ 男女共同参画意識調査で性別を「答えたくない」としている子どもが一定の割合いる。「自分らしさ」について、「男らしさ・女らしさ」ではない基軸を考えなければならない。
- ・ 「男らしさ・女らしさ」を自分の子どもに尋ねたとき、逆に「それってどういうこと？」と言われた。そして、「自分らしいってどういうこと？」とも聞かれた。「自分らしい」ということを探す学びが、子どもたちに必要だと思う。
- ・ 男女共同参画意識調査で、約 40% の子どもが周囲から「男らしく・女らしく」を求められていることが分かる。内容を見ると、言葉遣いや座り方である。この回答を男女別に見たときに、周囲の大人の意識が分かるように思う。
- ・ 現在の中学校用「学習資料」は、男女平等だけを取り上げていることに違和感があるし、前提として男尊女卑があるように感じる。裏面には「男性の方が優遇されている」とあるが、子どもはそう感じていないため、実態と合わない内容となっている。生徒が自然と男女共同参画を意識できる内容にすることが望ましい。
- ・ 普段生徒と接していて、生徒にとって男女共同参画は当たり前と感じていると思われる。しかし、大人にとっては意識しなければいけないことである。今回の意識調査の結果から、教師の態度や言葉掛けから生徒が男女の格差を感じていることが分かる。教員の何気ないところに出ているのかもしれない。
- ・ ジェンダーギャップ指数都道府県別が発表されており、新潟県は 26 位である。子どもたちが普段過ごす学校の風景が男性中心で回っているとすると、

「決定権を持つのは男性」という隠れたカリキュラムを与えてしまう。子どもたちの周りにいる大人たちの生活習慣などが、男女共同参画意識に影響を与えていることを自覚しなければならない。

- ・ 公教育なので、誰をターゲットにしていくかが大切であろう。子どもの中にも男女共同参画の意識差があると思われる。意識が育っていない子をターゲットにしたい。誰一人として取りこぼしてはいけない。

②男女平等教育推進に関する意見交換

- ・ 男女平等教育はいろいろな教育と関連している。「学習資料」の改訂の際に、教科や他の教育と横断するような視点を入れられないか。
- ・ ある学校では、助産師を招いて性教育を小学校3年生にしていると聞いている。性教育は教員では指導しにくい部分があると思われるが、助産師を活用するなどして子どもたちにしっかりと指導してほしい。生命の大切さを子どもたちが感じることで、デートDVを防ぐことができると思う。

(4) 副会長挨拶

- ・ 活発な議論によって、男女平等教育をより良く変えていく可能性が見えたように思う。
- ・ 次回、改訂に向けてさらに方向性を詰めていきたい。